



日本プライマリ・ケア連合学会
中部ブロック支部 活動報告

発行人：佐藤 寿一
事務局 〒466-8560 名古屋市昭和区鶴舞町 65
名古屋大学医学部附属病院総合診療科 内
E-mail: sato.juichi.v7@f.mail.nagoya-u.ac.jp

ニュースレター No. 53 (2026. 3) 本号の編集担当者 山本憲彦

【支部情報】

予定

- 1) 『総合診療専攻医オリエンテーション*2026』
2026年5月16日(土) 14:00-17:00 オンライン開催
- 2) 『第15回日本プライマリ・ケア連合学会中部ブロック学術集会』
2026年11月29日(日) 会場：未定
- 3) 『中部ブロックポータルフォーリオ発表会*2027』
2027年3月13日(土) ZOOMによるオンライン開催

◆福井支部◆

【活動報告】

- 1) 地域住民向け講演会「睡眠を整えるためのヒント —眠くなるためのお話—」を開催しました

2026年2月28日、永平寺開発センターにて、永平寺町社会福祉協議会地域包括支援センター主催の地域住民向け講演会「睡眠を整えるためのヒント —眠くなるためのお話—」が開催され、講師としてお話しさせていただきました。当日は地域住民の方々約20名にご参加いただき、不眠が心身の健康に与える影響や、質の良い睡眠をとるための生活習慣について解説しました。特に、良い睡眠のためには単に「長く眠る」ことだけでなく、「質の良い睡眠」をとることが重要であること、そして生活の中で自律神経を整える工夫ができることについてお伝えしました。

具体的には、睡眠環境の整え方、入浴や体温変化を活用した深部体温の調整、心身を落ち着かせるマインドフルネスなど、日常生活の中で取り入れやすい方法を紹介しました。

質疑応答では睡眠薬の使用に関する質問があり、参加者の皆さんが睡眠について日頃から関心を持っていることがうかがえました。また、参加者同士で睡眠の工夫について話し合う場面もあり、活発な交流が見られました。

今後も地域の皆さまの健康づくりに役立つ活動に取り組んでいきたいと考えています。



2) Choi+ (ちょいたす) 開催しました！

2026年1月10日、福井大学医学部附属病院 医学生1-6年生を対象に年4回実施している勉強会=Choi+ (ちょいたす)。今回のテーマは「縫合処置を学ぶ！縫合・糸結び・血管穿刺-」でした。形成外科 Dr をお招きし、縫合実習の基礎から教えていただきました。和気あいあいとした雰囲気の中、一生懸命実習に取り組む姿がみられました。来年度も引き続き Choi+ 継続を予定しております。



3) 地域医療早期体験プログラム 腎臓病食の調理を通じて多職種連携を学ぶ

2026年2月26日、27日、昨年度に引き続き、今年で4年目となる地域医療早期体験プログラム実習を実施しました。この実習は仁愛大学人間生活学部 健康栄養学科の学生と当院医学科1年生がともに講義の後、調理実習を行います。慢性腎臓病食をフライパンや鍋を使う通常の調理とIH式個別調理システム「dishcook(ディッシュクック)」を用いた方法で調理しています。調理後には調理の反省はもちろん、グループワークとして管理栄養士と医師の多職種連携はどのような例があるのか、模擬症例に対しどのようなアプローチがあるのかを皆で話し合いました。



4) 2025年度フレイル・サルコペニア検診開催しました！@永平寺町立在宅訪問診療所

えいぼうでは、2025年度も福井大学地域医療連携講座のみなさま、医学生さんにもご協力いただき、3月9日に、フレイル・サルコペニア健診を行いました。外来診療中の方、町報を見てきましたという方あわせて21名の方にご参加いただきました。ただ検診を行うだけでなく、結果に基づいて、たんぱく質を中心とした食事のアドバイス、地域での開催されている運動教室など各種ご案内も行いました。学生さんたちも問診から検査・診察まで受診者の方の付き添ってお手伝いくださり、地域での活動に興味をもってもらえたようでした。2026年度には、永平寺町の協力を得て、診療所内で毎週運動教室を開催することも決まりました！えいぼうとして、今後も診療だけでなく、地域の健康維持・増進のお手伝いを展開していきたいと思えます。

<https://www.hosp.u-fukui.ac.jp/eiheiji-sinryou/>



◆岐阜支部◆

【活動報告】

1) 2025年度第6回ぎふ総合診療カンファレンス

日時：2026年2月18日（水）20：00～21：00

場所：オンラインミーティング

参加：岐阜県内の総合診療専攻医4名・専門医1名、特任指導医3名、計8名

内容：一般外来に関して、対話を通して専攻医、指導医それぞれの視点から知識のアップデート、ヘルスマンテナンスの対応、指導の難しさ(コミュニケーション、タイムマネジメントなど)の課題を抽出し、USPSTFのアプリの使い方やカルテのテンプレートの使用などの改善案を出し合いました。

なお、2025年度第5回ぎふ総合診療レジデント・デイ(2026年1月9日開催予定)は講師の都合により中止となりました。

2) 第3回岐阜県総合診療専門研修プログラム指導者講習会

日時：2026年2月28日（土）16：00～18：00

場所：岐阜勤労者医療協会みどり病院

担当：岐阜勤労者医療協会みどり病院内科 西尾大樹先生

参加：岐阜県総合診療専門研修指導医・特任指導医18名

内容：詳細は以下をご覧ください。

岐阜県の総合診療 指導医講習会

臨床 スーパーバイザー ワークショップ

岐阜県内指導医
達の知識向上と
交流を深める講
習会
2025 年度第3回
2026. 2. 28 開催

基幹病院報告

- ・県内の基幹病院の近況報告を行いました
- ・専攻医がメンタル疾患で研修が行えていないケースの報告がありました。指導医としてどのようにケアを行っていくか、考えていく必要があるとの認識が共有されました
- ・来年度に研修を開始する予定の専攻医の紹介が各病院よりありました

グループディスカッション

- ・講演会の感想交流
- ・自施設で行っている医科歯科連携の共有
- ・今後の口腔ケアについて行っていく課題、上記について、グループに分かれて話を行いました
- ・ディスカッションの内容を発表し、全体で共有しました。自施設に歯科医のいる先生もいましたが、歯科医のいない施設ではどのように連携を行っていくかの議論がありました

講演会

講演会のテーマは「誤嚥性肺炎患者における医科歯科連携」で行いました

講師：みどり病院歯科医師
大竹祥一郎先生



●講演内容

- ・70歳以上高齢者の肺炎の70~80%は誤嚥性肺炎
- ・日本人の死因の第5位になっている
- ・歯垢1g中に1億個の細菌が含まれ、糞便と同等の細菌密度がある。専門器具による機械的歯垢と舌苔除去、粘膜ケアと保温管理を行い、誤嚥する唾液の細菌数を劇的に減らす
- ・専門的な口腔ケアを行えば、肺炎による死亡率が減る(19.2vs11.2%) (Lancet1999)
- ・早期歯科介入で入院日数が7.5日短縮する
- ・口腔内を清潔にすると食べる意欲が改善
- ・口腔アセスメントはOHAT
- ・絶食にすると唾液が出ず、咀嚼による洗浄も止まり、細菌は濃縮化され猛毒化する。絶食中の時こそ、口腔ケアが必要。抗菌薬で治療をしても、すぐに再発する
- ・みどり病院と隣接する同法人のすこやか歯科での活動報告あり



※会場の様子(左)と嚥下食実食中の様子(右)

～編集後記～

今回講習会の主管したみどり病院の西尾です。大きな問題なく講習会を執り行うことができ、先ずは安堵しています。

「大変勉強になりました」「他施設の先生方と話す機会があることがとても嬉しかったです」等の感想がありました。この活動を継続し、岐阜県内の総合診療の充実を図ることが大事だと実感しました。



【今後の予定】

1) 第4回岐阜県総合診療専門研修プログラム指導者講習会

日時：2026年6月頃

場所：岐阜県関市内

担当：関中央病院総合診療科・在宅診療部門 森充広医師

◆富山支部◆

【活動報告】(2025年12月～2026年2月)

■ ポートフォリオブートキャンプ — PF を集中的にブラッシュアップ

JPCA 富山支部は専攻医の専門資格取得支援に力を入れています。

2026年1月に毎年恒例のポートフォリオブートキャンプを開催しました。総合診療・家庭医療専門医申請を控えた県内の専攻医が参加し、各自のポートフォリオについて指導医から個別にフィードバックを受けながら、内容の整理とブラッシュアップを行いました。

当日は、症例の振り返りの深め方や学びの言語化について具体的な指導が行われ、1日ばかりで集中的に仕上げる機会となりました。

■ ポートフォリオ発表会 — 連携重視のマネジメント

ポートフォリオ発表会・勉強会を毎月継続して開催しました。

2026年2月には富山大学医学部医学教育学講座の武島医師から「連携重視のマネジメント

～難しい患者さんにどう向き合うか～」と題して、複雑困難事例のケア、多疾患併存、統合されたケア、チーム医療・ケアの調整や移行の4領域にまたがってレクチャーを行われました。

専攻医からは、CbD や miniCEX の事例共有や症例を通じた学びが発表され、それに対して指導医・参加者から総合診療、家庭医療の視点でフィードバックが行われました。

■ 南砺市民病院スキルアップセミナー

第1回は2025年12月12日に洛和会丸太町病院の上田剛士先生をお迎えして「日本地図で学ぶ医学」と題してレクチャーいただきました。第2回は1月24日に獨協医科大学の志水太郎先生をお迎えし「診断が上手くなるロジック」と題してレクチャーいただきました。豪華な講師による本セミナーは学生、研修医、専攻医、指導医、多職種が参加するにぎやかな会になりました。

■ 臨床研究勉強会 — へき地医療からのエビデンスの発信

富山大学総合診療科により隔月で定期開催し専攻医・若手医師を中心に研究や実践の発信を支援している臨床研究勉強会では、2月18日に「へき地医療からのエビデンスの発信～離島診療からの事例～」と題して、横浜市立大学の金子惇先生にご講演いただきました。

金子先生のへき地での臨床経験から出発し、国内外に広がった研究のご発表を聴きながら、リサーチクエスションの広げ方や研究を実現させる方法について学びました。

■ 学生交流会 — 臨床推論基本のき

2026年2月20日には富山大学附属病院総合診療科が主催で今年度第3弾となる学生交流会が行われました。「臨床推論基本のき」と題して、集まった学生たちへ総合診療医が臨床実習で実践可能な臨床推論スキルについてレクチャーを行いました。

■ 指導医 FD — 職場をよくする よくなる秘訣

2026年2月22日に亀田ファミリークリニック館山の岩間秀幸先生による組織運営に関するレクチャーやワークを開催し、県内外の指導医、学生、多職種が参加しました。

本企画はJPCA 富山支部と北信越 HANDS との共催で例年開催され、今回は「職場をよくする よくなる秘訣 ～働きやすさを生み出すマネジメントとマインドセット～」という演題で講演いただきました。

参加者からは、「職場をよくする工夫」について組織運営や教育の視点から具体的な意見が出され、各施設の実践を共有する機会となりました。

【今後の予定】

本期間も、指導医、専攻医、学生、多職種と様々な対象者に対して、教育、組織運営、臨床研究、臨床推論、ポートフォリオ作成といった、幅広い教育イベントを行いました。

4月からも新たな専攻医、指導医が富山支部に加わってくれます。県内へ新たに開業されたり、総合診療科を立ち上げる仲間もいます。年度が変わっても引き続き富山支部としての教育体制の充実を図っていきます。

5月22日(金)、6月30日(火)ともに18時30分より、富山大学附属病院総合診療・家庭医療専攻研修プログラム(通称とむじゅり)のプログラム説明会を開催します。

現地とオンラインのハイブリッドで開催しますので、ご興味をお持ちの方はぜひ miyono@med.u-toyama.ac.jp (事務担当：高木) へお問い合わせください。

◆静岡支部◆

【活動報告】

1) 第3回『森町における精神障がい者の現状』研修会／森町家庭医療クリニック(1月15日)

森町家庭医療クリニックでは、令和3年から森町の障がい者の生活状況や現状から課題の抽出を行い、医療機関と保健・福祉関係者との交流を深め、連携強化に向けて取り組むため、年3回精神障がい連絡会議を行っています。令和5年から研修会を開催し、今年で3回目の開催となりました。

《研修目的》

- ①森町の精神障がい者の支援体制(資源)を知る。
- ②グループワークから支援方法や多職種連携について考える。

《参加者》

当クリニック医師、浜松市精神保健福祉センター長の二宮貴至医師、看護師、薬剤師、森町訪問看護、他市の訪問看護、ケアマネージャー、福祉課地域福祉係、障害福祉支援施設職員、事務、検査技師、放射線技師、看護助手と様々な職種53名が参加されました。

《研修内容》

- ①福祉課地域福祉係 精神保健福祉士から「森町精神障がい者支援活動の実際」の活動報告。
- ②二宮貴至医師による「精神障がい者の生活支援について」の講義。
- ③グループワーク「多職種の体験談から関りを振り返り共有をする」をテーマに顔の見える関係つくりとそれぞれの役割や関わりなど聞くことで交流を深めることができました。

事後アンケートでは、「福祉課の活動を知ることができた」「森町の新しい障害支援施設の実際が理解できた」「二宮医師の講義で関わり方が理解できた」「明日から実践できそう」「顔が見える関係ができた」「訪問看護の体験談から

対応の学びになった」など多くの意見をいただき、次年度の継続を希望される声も聞かれました。

今後も研修会の継続と当事者が安心して地域で暮らすために、「精神障害にも対応した地域包括システムの構築」という視点から、多職種とチームとなり包括的に対象者を捉え、継続したケアを提供できるよう活動していきます。



2) 菊川市家庭医療センターの活動報告

菊川市家庭医療センターの松田真和医師は、令和7年度に静岡県内3市の在宅医療・介護連携推進事業に携わりました。11月に伊東市にて人生会議(ACP)に関する市民講演およびシンポジウムに登壇し、12月には菊川市で意思決定支援をテーマとした多職種研修会を実施しました。さらに1月には富士市にて再びACPに関する市民講演を担当しました。これらの取り組みを通じて、地域住民や専門職の方々と「どんなときも自分らしく生きられること」を目指した意思決定支援の重要性と、その実践に向けた対話の必要性を共有しました。



3) 知的探究塾の活動報告／溝口ファミリークリニック

溝口ファミリークリニックでは、医師・医療従事者を対象としたオンライン勉強会「知的探究塾」を毎月開催しています。2025年12月から2026年2月にかけては、「経営」と「対話」を深める以下のテーマで実施いたしました。

12月：「医師のための経営羅針盤 クリニック・ブランディング ～患者にどのようにクリニックの考えを的確に伝えるか～」大西 大輔 先生

1月：「第2回オープンダイアログ」森川 すいめい 先生 / 村上 純一 先生

2月：「医師のための経営羅針盤 真の顧客体験を導く ～感情的価値とコピーライティング～」寺田 伊織 先生

1月は知的探究塾として初となる「リアル開催」を実施。森川先生、村上先生を囲み、医療現場における『対話』の可能性について、対面



ならではの熱気あふれる深い時間となりました（※写真は当日の様子です）。

また、12月・2月の「経営羅針盤」シリーズでは、単なるスキルではない、クリニックの想いを届けるための本質的な学びを共有しました。

「知的探究塾」会員の方は、以下のセミナーに当日無料で参加可能です！

お申し込み・詳細はサイトから：<https://sub.chitan.net/p/top>

4) 第21回 慢性期医療を考える会／静岡県立総合病院（1月21日）

場所：静岡県立総合病院6階 つつじホール（静岡市葵区）

参加者：計119名（現地71名、Web48名）

特別講演 ケアプロセスを切れ目なくつなぎ、意思決定を支える
～療養者の旅路に地域共同で伴走できていますか～

演者：在宅ケア移行支援研究所 宇都宮宏子オフィス代表 宇都宮宏子先生

事例検討 「帰りたい」という思いをつなぐ支援

—在宅環境を整えて自宅退院に至ったALSのケース—

演者：静岡県立総合病院患者サポートセンター 柴 幸代，内田 基

内容：特別講演では、自立から要支援・要介護状態を経て人生の最終段階へと向かう過程で入退院を繰り返す高齢者に伴走するために、闘う医療から治し支える医療への変革が求められていること、ケア移行を支えるために必要な以下の3点の視点を解説頂いた。

1. 意思決定支援 単なるインフォームドコンセントだけではなく、本人の意思、医学的判断、家族の意向を含めたすり合わせ(shared decision making)が求められる。
2. 退院支援・退院調整 入院3日目以内の第1段階(入院前の生活状況把握等)、入院3日目以後の第2段階(患者・家族の疾患理解・需要への支援等)、退院後サービス調整が必要になった後の第3段階の3段階で行う必要がある。
3. 退院支援から、在宅療養支援へ 退院はゴールではなく、外来患者は生活者でもある。病状悪化予防、暮らしの安定、ACP支援は外来でこそ重要。退院支援よりも外来での継続支援こそが核心。

最後に、「老いても、がんになっても、家に帰れる地域を作る」ために、病院・地域支援者が一つのチームとして療養者の旅路に伴走することが求められている、とのお言葉を頂いた。

事例検討では、ALSの悪化によりCO2ナルコーシスとなり入院、人工呼吸器装着となり、いったんは自宅退院は困難と考えられたものの、本人の思いを叶えるために最終的に自宅退院を選択した事例を通じて、家族への支援を含めてケア提供者としてどのように関わっていけるかについて急性期病院、在宅医、訪問看護師、ケアマネ等のそれぞれの参加者を交えたディスカッションを行った。

アンケートの中でも、家族の決断、覚悟を誘導しないような丁寧な説明、寄り添う気持ちが大切であることを指摘しているもの等、現場での難しい意思決定支援に悩むご意見を複数頂いた。



5) ブログ／静岡こあらの覚え書き

静岡県の総合病院で働く内科医「こあら先生」が、日々の臨床で得た学びや気づきを記録しているブログです。記事は100本を超え、医師27年目の経験をもとに若手医師にも役立つ「ちょっと考えるヒント」をわかりやすく紹介しています。

Blogはこちらからご覧ください ⇒ <https://sizuokakoara.com/>



【今後の開催予定】

◆ クリニックアワード2026（特別編・リアル/オンライン開催）

～クリニック経営改善フェス～

日時：2026年4月12日（日）10:00～

会場：東京国際フォーラム & オンライン

詳細：<https://clinic-award.com/>

内容：日々の診療や経営に追われる中でも、明日からの現場を前向きに変えるヒントと出会えるのが、クリニック経営改善フェスです。

先進的な取り組みを学べるだけでなく、同じ課題や想いを持つ院長・スタッフとつながれる貴重な機会でもあります。「参加してよかった」で終わらず、「来てよかったから実践したい」と思える学びと刺激が詰まった場です。

◆ 知的探究塾 #26（オンライン開催）

日時：2026年5月12日（火）19:30～21:00

内容：他では聞けない！診療報酬改定のための体制づくり 他

講師：大西 大輔 先生（MICTコンサルティング株式会社 代表取締役）

◆2026年第4回 浜松医科大学総合診療専門研修プログラム説明会

日時：2026年4月24日(金)19:00～20:00

場所：ZOOM

内容：プログラム説明・施設紹介・個別相談

詳細・申込：<https://www.shizuoka-fm.org/event.php?eid=44&ym=2026-03>

◆指導医&専攻医ペアによるオンライン座談会も開催中！（浜松医科大学総合診療プログラム主催）

テーマ：SFM/SHMの魅力とは

日時：4月24日(金)18:45～19:00

形式：ZOOM

詳細・申込：<https://www.shizuoka-fm.org/event.php?eid=46&ym=2026-03>

◆石川支部◆

【活動報告】

1) 「*ドクターG×POCUSカンファレンス in 金沢」

日時：2026年2月14日（土）14:00～17:00

場所：金沢大学附属病院 CPDセンター

内容：

金沢大学総合診療共創センターオープニングイベントとして「*ドクターG×POCUSカンファレンス in 金沢」が開催されました。ケースナビゲーターとして自治医科大学地域医療学センター総合診療部門教授の松村正巳先生をお招きし、リアルな症例を通じてリアルな臨床推論の過程を学びました。第二の聴診器であるPOCUS（Point of Care 超音波）を活用しながら臨床の現場での思考を高める企画です。病歴聴取、身体診察に加えPOCUS所見も含めてケースディスカッションと共に参加者全員で臨床推論に挑みました。

【報告事項】

特になし

【今後の予定】

特になし

◆三重支部◆

【活動報告】

1) Mie GP Impact Forum

【日時】2025年12月20日（土）-21日（日）

【会場】三重大学地域イノベーション研究開発拠点

三重大学医学部医学科学生を含む20名の学生の参加及び16名の三重県内高校生、また、指導医、他県の行政担当者が参加し交流した。高校生にとっては医学部の学生や医師と交流し、医療あるいは、総合診療医という職業に対する解像度が上昇した。学生や指導医も他大学の方々と交流し新たな知見を得た。



2) レジデントデイ

【日時】2026年1月22日(木) 15:00-

【会場】三重大学医学部内講義室

三重総診レジデントデイを開催。専攻医9名、指導医が参加しました。

ビデオレビュー、ケースディスカッションとも1年目の専攻医からの発表で、指導医・先輩専攻医から意見をいただき、学びの多い勉強会となりました。



3) ポートフォリオ発表会

【日時】2026年1月25日(日) 9:00-12:00 オンライン

Zoomのブレイクアウトルームを使用して10名の専攻医のポートフォリオ発表をオンラインでの実施

4) 総合診療 虎の穴

「継ぐ覚悟より、続ける戦略一志では継げない時代の継承開業」

【日時】2026年2月7日(土) 15:00-18:00

【会場】三重大学アクティブラーニングスタジオ

【演者】森洋平先生(森医院)

橋本修嗣先生(はしもと総合診療クリニック)

【今後の予定】

1) レジデントデイ

【日時】2026年3月26日(木) 15:00-

【会場】三重大学内講義室

今年度最後のレジデントデイとなります。総合診療専門研修プログラムの専攻医1名が修了予定です。

◆薬剤師部会◆

【活動の概要】

日本プライマリ・ケア連合学会(JPCA)の中部ブロック内で活動していた薬剤師の集いが、2025年5月『薬剤師部会』として発足、11月に正式承認されました。

プライマリ・ケア認定薬剤師の認定更新に必須のポートフォリオ(事例報告書)作成の相談会や、ポートフォリオの発表練習、地域での活動報告や様々な発表の事前練習・報告発表、日頃の悩み症例の相談などを、住む地域が近いながら顔の見える関係で行っています。

薬局、病医院、ドラッグストア、大学などのアカデミア、企業や行政職などに身をおき、プライマリ・ケアの実践に興味のある薬剤師や、将来を模索している薬学生でも自由に参加できます。

プライマリ・ケア認定薬剤師を目指している方も、取得している方も、まだJPCA入会を悩んでいる方も参加できます。

テーマや状況に応じて、中部ブロックに限らず薬剤師や多職種の参加もできます。

2025年度からは隔月で「ミーティング(集い)」を開催し、学生や若い先生方が参加しやすいようオープン参加の形を取っています。

- 平日の夜21時ころから
- 1時間~1時間30分程度
- Zoomでのオンライン開催
- 参加費は無料
- 申込は不要(途中参加・途中退席・耳だけ参加もOK)

【活動報告】

◇ 第4回中部ブロック薬剤師部会ミーティング

日時: 2026年1月22日(木) 21:00~ 7人参加

第4回
**中部ブロック薬剤師部会
ミーティング**

2026年1月22日(木)21時
Zoomにて

<https://us06web.zoom.us/j/81007764008?pwd=XhaZ4GrxyVQtduuOlgZrQ65HJlhl.1>
ミーティング ID: 810 0776 4008
パスコード: 142970

① **ポートフォリオから学ぼう**
今回は静岡の梶原先生からポートフォリオを一題発表していただきます。ポートフォリオを通して、他の薬剤師のお仕事を知り、視点を学び、知識を共有し、お互いに学びましょう。更にショーケースポートフォリオとしてより良いものにするアイデアを出し合えれば良いですね。

② **日常のよもやま話**
日常業務の相談、活動報告などざっくばらんに交流を深めましょう。

中部ブロック (静岡・愛知・三重・岐阜・福井・石川・富山) に在籍する
プライマリ・ケアに関心のある薬剤師ならどなたでも参加できます。
是非ご参加ください。



◇ 第5回中部ブロック薬剤師部会ミーティング
日時：2026年3月19日(木) 21:00～

第5回
**中部ブロック薬剤師部会
ミーティング**

2026年3月19日(木)21時
Zoomにて

① **ポートフォリオから学ぼう**
ポートフォリオを通して、他の薬剤師のお仕事を知り、視点を学び、知識を共有し、お互いに学びましょう。更にショーケースポートフォリオとしてより良いものにするアイデアを出し合えれば良いですね。

② **日常のよもやま話**
日常業務の相談、活動報告などざっくばらんに交流を深めましょう。

中部ブロック (静岡・愛知・三重・岐阜・福井・石川・富山) に在籍する
プライマリ・ケアに関心のある薬剤師ならどなたでも参加できます。
是非ご参加ください。

【世話人メンバー】

- ✓ 富山県：畠山 規明 (たんぽぽ薬局魚津店/魚津市)
- ✓ 石川県：折戸 真澄 (タイガー薬局/内灘町)
- ✓ 福井県：野田 学 (JCHO 若狭高浜病院/高浜町)
- ✓ 岐阜県：小川 克己 (リアン薬局各務原店/各務原市、副代表)
- ✓ 愛知県：鈴木 秀明 (あんず薬局知立店/知立市、JPCA 薬剤師部会副代表)
- ✓ 三重県：荒木 史郎 (一志調剤薬局中町店/津市、代表)
- ✓ 静岡県：西永 尚典 (ウエスト薬局/浜松市、副代表)

【中部ブロック薬剤師部会ホームページの開設】

中部ブロック支部のホームページに「薬剤師部会」のページができました。
ミーティング案内はこちらにも載せますので、適時ご確認いただけると幸いです。

【中部ブロック支部薬剤師会員メーリングリストの準備】

中部ブロックに居住する JPCA 会員の中で薬剤師と薬学生を対象としたメーリングリストを作成中です。
見に行かなくてもミーティングなどの情報が届く体制整備に向け、詰めの段階です。

「中部ブロック薬剤師部会ミーティング」は、プライマリ・ケア認定薬剤師の研修単位がつかない交流の場ですが、学会内、Zoom 内、地域内、エリア内、他のフィールドで出会った際に顔がみえる・顔がわかる・どういったヒトかわかることは大切だろうという思いもあり、その広報を兼ねて開始いたします。

届くようになりましたら、ご意見などいただけると幸いです。

【みなさまへのお願い】

同じ中部ブロック内で活動している薬剤師、そして将来を模索している薬学生、医師目線でいえば同じ病院内や在宅先での興味ありそうな薬剤師、看護師目線では同じ空気感を持っていそうな薬剤師にお声かけ頂けると嬉しいです。

ちなみにプライマリ・ケア認定薬剤師となるためには《JPCA の認定医、専門医、指導医による外来診療及び訪問診療の見学実習が必須》となっており、受けていただける実習先が多くはない状況です。あきらめずに通えるエリアが広がるよう医師のネットワークにも期待して、多くの仲間とプライマリ・ケアを実践していきましょう。

(文責：世話人一同)

<支部運営についての情報>

●各県の代表窓口

三重県；山本憲彦、富山県；三浦太郎、石川県；中橋毅、岐阜県；森田浩之、福井県；林寛之、静岡県；井上真智子、愛知県；佐藤寿一

●プログラム責任者の会中部ブロック代表；大浦誠

●中部ブロックの活動に関するご意見等ありましたら下記までご連絡ください
中部ブロック支部事務局 kimura.etsuko.f2@f.mail.nagoya-u.ac.jp